

きづくよりそうになく

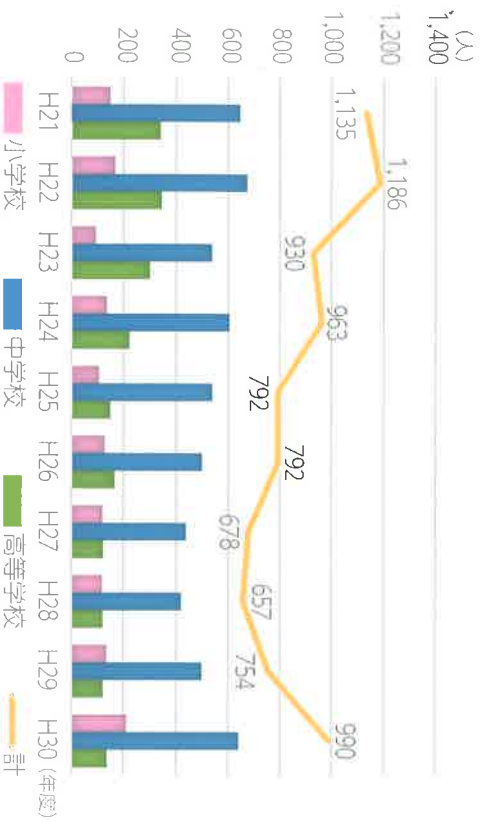
～不登校の未然防止・初期対応のために～

近年、不登校児童生徒が増加しています。教職員や保護者はもとより本人でさえ、きづかけや理由がつかみきれないケースもみられます。

このリーフレットを研修等で活用していただくとともに、これまでの経験を共有することで、不登校の未然防止・初期対応につなげていける学校の体制を構築してください。

徳島県の不登校児童生徒数 【国公立立学校】

文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より



不登校

心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくとも登校できない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの

子どもたちを思い浮かべて…

いつもと様子が違う子どもはいませんか？

不安やストレスを抱えているような子どもの顔が一人でも浮かんだら、

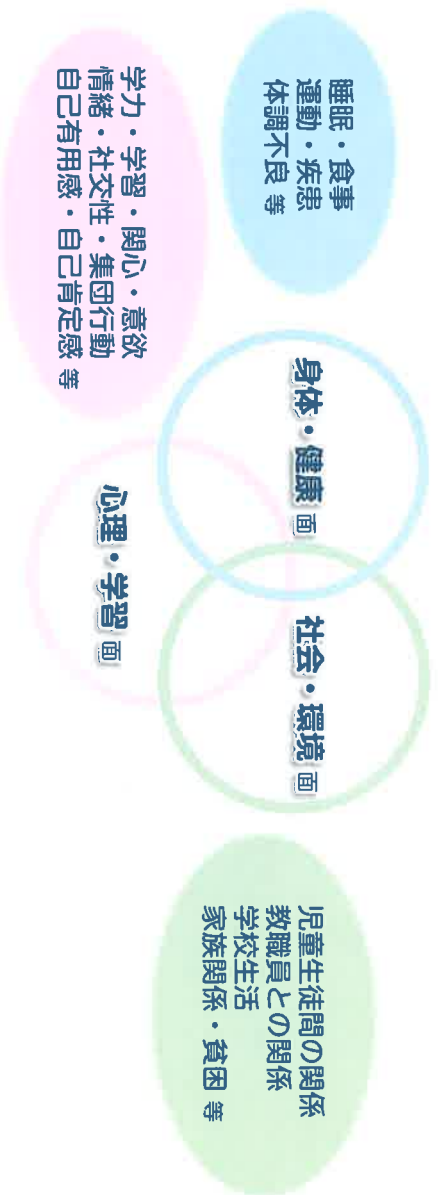
まずは声かけを試みましょう。

すばやい組織的対応が不登校の未然防止につながります。

★ 要因は複合的にとらえる

不登校は、**全ての子どもに起こりうること**であり、問題行動ではありません。全ての教職員が普段の学校生活の中で、わずかな変化に気づき、思いを受けとめることで個々の子どもへの理解につながりましょう。

不登校の要因は多様であり、複合的にとらえる必要があります。



一見問題はないように見えても、不安で心が落ち着かなかつたり、人との距離感やつき合い方などについて悩んでいる子どもがいます。また、気力が湧かず学校に足が向かない子どももいます。日常生活における様々なストレスが、不登校につながるケースもあります。

子どもの思いを受けとめるためには、教職員自身の**教育相談力を向上**させるとともに、**特別支援教育に関する研修**等を通して、個々のケースに対応できる力をつけていくことが大切です。

子どもの抱える課題を多面的にとらえ、一人一人に応じた支援を組織で考えていきましょう。

いつもと違う？ まずは声かけ！

- | | | |
|--------------------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が増える | <input type="checkbox"/> 授業中も机に伏せている | <input type="checkbox"/> 行事や部活動に参加しながらいない |
| <input type="checkbox"/> 友人との関わりを避ける | <input type="checkbox"/> 攻撃的でトラブルが増える | <input type="checkbox"/> 友人関係が突然変わる |
| <input type="checkbox"/> ぼんやりしている | <input type="checkbox"/> 好きなことにも興味を示さない | <input type="checkbox"/> 身だしなみを気にしない 等 |

普段の関わりによる気づきが一番大切です。気になることは、子どもに関わる教職員で共有することを忘れずに！

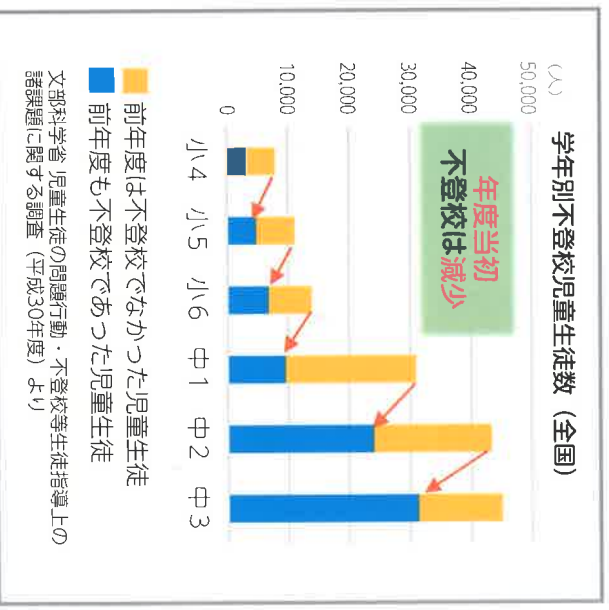
★ 二つの視点で把握

～初期対応と自立支援～

不登校が学年を追って増え続けるのは、不登校状態が解消される子どもがいる一方で、それ以上回る不登校の子どもが新たに生まれるからです。

支援の際は、前年度からの**継続と新規の二つの視点**で考えてください。新規に不登校になった子どもへの支援は**初期対応**が大切ですが、長期間継続している子どもには**自立を目標に段階的な支援**をする必要があります。

初期対応として、年度当初の新たな出会いと関わりが、子どものこころに響くこともあります。



よりそう

こころの声に耳を傾ける

★ 居場所づくり

魅力ある学校・学級づくり

- 輝く** 一人一人の個性を引き出す指導
- わかる** 楽しく主体的に学び合える授業
- 安心できる** いじめ・暴力を許さない姿勢

子どもたちに承認される喜びを実感させるとともに、安心して関わり合える居場所づくりのために、PBS（ポジティブな行動支援）を実践してみませんか。子どもの思いに耳を傾け、できたことや頑張った過程に着目することが、子どもの変容に、そして、不登校の未然防止につながります。

ポジティブな行動支援 (Positive Behavior Support)

子どもの社会性や主体性を育むことを目的として、教師の「**こんな子どもに育ってほしい**」、子どもたちの「**こんな自分になりたい**」という願いを形にするものです。



プラスのサイクル

望ましい行動を見つける・教える

プラスのサイクルのなか、PBSであたたかな学級・学校づくりが進めば、すべての子どもの**居場所づくり**や**安心感**につながります。また、**教師との信頼関係**も強まります。

★ 絆づくり

子どもたちの主体性と創意を生かす

- 自分が好き** 自尊感情・自立心を高める支援
- 夢がある** 将来への展望が広がる授業
- 仲間がいる** 相互理解を深め認め合う学級づくり

教職員の見守りのなかで、子どもたちの主体的・積極的な取組による絆づくりを進めることが大切です。思いや考えを受け止め、仲間づくりにつながるきつかけをつくりましょう。「いじめ防止子ども委員会」の活動を通じて、自分たちの学校について考えたり、居心地のよい学級づくりのために協力したりすることで、絆の深まりを実感させていきましょう。

いじめ防止子ども委員会

子どもたちがいじめ問題を自分のこととして考え、解決に向けて主体的に取り組む活動です。

- ・ 自他を尊重し、助け合える人間関係づくり
- ・ 互いに信頼できる集団づくり
- ・ 誰もが笑顔で安心できる環境づくり

【活動例】・ 仲よし（七夕）集会の実施

- ・ スノホ等の利用ルールの作成・発信
- ・ いじめ防止の缶バッジ（表情の缶バッジ）の作成・配布



いじめ防止子ども委員会

ひろがる絆



★ 家庭との連携

学校と家庭が両輪となり
子どもの成長を促す

整える

基本的な生活習慣の確立

つながる

情報を共有

理解する

教育方針の相互理解

家庭や学校での様子を情報交換するとともに、保護者の願いを受け止めながら個々の状況に応じた関わり方を考えていきましょう。子どもの不調は、保護者にとって大きな悩みであり、支援を要する場合があります。専門機関につなげることも視野に入れながら、傾聴と共感の姿勢で関わり続けてください。

★ 専門職との連携

支援のタイミングを計りながら組織的に対応

スクールカウンセラー(SC)

[公認心理師・臨床心理士等]

心理(カウンセリング)の専門家
こころを整理し立て直すための
援助をする

- ▽カウンセリング・相談
- ▽教職員・保護者への支援
- ▽教育相談向上に関する研修
- ▽ストレスマネジメント等に関する講話



スクールソーシャルワーカー(SSW)

[社会福祉士・精神保健福祉士等]

福祉(ネットワーク)の専門家
家庭(子ども)・学校と福祉・医療・地域
等の関係機関をつなぐ

- ▽関係機関とのネットワークの構築
- ▽ハイリスクな家庭環境等への働きかけ
- ▽福祉サービス利用援助・同行支援
- ▽連携方法や支援に関する研修



人間関係調整力の育成

「よりよい人間関係のつくり方」や「ストレスへの対処方法」などの講話も不登校の未然防止・初期対応への糸口となります。

厚生労働省「こころもメンテしよう」

スクリーニング会議で情報共有

気にかかる児童生徒を早期に把握し、見守り体制や支援の方法等について検討するスクリーニング会議は、定期的な開催やSC・SSWの参画でより効果的になります。

★ 校種間の連携

幼・小・中・高による縦の連携

キャリア・パスポート

児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるポートフォリオ

徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ

学年・校種を越えて持ち上がり活用する

児童生徒理解・支援シート

不登校や発達障がい、日本語学習等支援の必要な児童生徒について、一人一人の状況や支援のあり方を教職員で情報共有し、組織的・計画的に支援を行うために作成するもの

文部科学省児童生徒理解・支援シート

“中1ギヤツプ”

不登校が中1で急増

環境の変化や学習内容の難化に加え、新たな人間関係によるストレスを抱える生徒が多く、中学1年生で不登校が急増しています。

中学校見学や小学校への出前授業等の実施、**「キャリア・パスポート」**「児童生徒理解・支援シート」の有効活用など、小学校の状況をできるだけ正確に中学校へ伝達し、**校種の垣根をスムーズに越えていけるような取組**が重要です。

日頃から連絡を取り合えるような校種間連携をお願いします。

最後まできちんと話を聞かずにアドバイスする

話を聞いてほしいだけなのに...

自分の体験に照らし結論を急ぐ

先生のようにはなれない!

根拠もなく「大丈夫!!」「頑張れ!!」と言う

大丈夫じゃない! 頑張れないから話してるの

サインを見逃さない目と読み解く心が大切!
あせらず、あわてず、あきらめず

- ### 個人面談の留意点
- ・子どもの話をじっくり聞く
 - ・たとえ「何もない」「別に」等の繰り返しであっても、言葉の裏にある状況や思いを読み解く
 - ・焦ることなく、寄り添い続ける
 - ・「いつでも聞かよ」という姿勢を示し続ける
 - ・反応しない、しゃべらないときは、場所を移動して空気を変える

傾聴と共感の姿勢で

保健室での関わり方の留意点

- ・保健室は安心できる場所であることを雰囲気や態度で示す
- ・「学校に行きたい」という思いの裏側に、過度の緊張感と計り知れない不安があることを忘れない
- ・歩みは子どものペースにあわせる

子どものこころに寄り添う

子どもが**こころをひらくときを見逃さないよう**寄り添い続けて...

保健室は教室とは違う場所
子どもたちは落ち着きを求めていることを前提に...

「もう少しだけ頑張ってみたら?」

学校に来るだけで精一杯なのに

「ちょっと教室に行ってみない?」

教室に行けるなら保健室になんかいないよ...



家庭訪問の留意点

- ・まずは保護者の思いや願いを聴く
- ・子どもや保護者の状況と思いを正確に把握する
- ・一方的なアドバイスや思いを熱く語らない
- ・「一緒に考えていきましよう」の声かけとともに、教職員からこころをひらいていく
- ・長居はしない

保護者支援は 子ども支援への近道

話題は学校のことばかり

学校のことなんか聞きたくない!

やっぱり行かせないとダメよね...

みんなって誰? 友だちとうまく付き合えないから悩んでるのに

心配してくれる友だちがいるなら行けるんじゃない...?

仲間を強調
「友達も心配してる!」「みんな待ってる」等

子どもへのまなざしは、**学校と家庭で違ふ**ものです。それぞれの**気づきの重ね合いが大切**です。気になることを連絡し合える関係は、築けていますか?



新たな不登校の要因

ネット依存

中高生の7人に1人がネット依存の疑い
93万人/650万人

*2017年度厚生労働省研究班調査

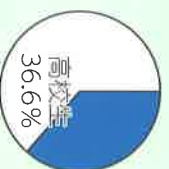
ゲーム障害

オンラインゲームなどにのめり込み、
生活や健康に深刻な影響が出た状態のこと

*世界保健機関（WHO）が精神疾患として正式認定

令和元年度徳島県携帯電話等の利用状況アンケート結果（対象児童生徒2,185名）

インターネットの利用時間《平日3時間以上》



ゲームをする時間《平日3時間以上》



ネット依存の診断基準

～キンバリー・ヤング博士の8項目からなる診断質問票～

- Q1 あなたはインターネットに夢中になっていると感じていますか？
- Q2 満足を得るためにネットを使う時間をだんだん長くしていかねければならないと感じていますか？
- Q3 ネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびありましたか？
- Q4 ネット使用時間を短くしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかつたり不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じますか？
- Q5 使い始めに意図したよりも長い時間オンラインの状態ですみますか？
- Q6 ネットのために大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがありましたか？
- Q7 ネットへの熱中のしすぎを隠すために、家族、学校の先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがありますか？
- Q8 問題から逃げるために、または絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといった嫌な気持ちから逃れるためにネットを使いますか？

※5項目以上該当…ネット依存状態 3項目の該当…ネット依存予備軍

▶ゲームやインターネットに依存させないために

- [家庭]**
- ・子どもと保護者の対話によるルールづくり
 - ・年齢や状況に応じたルールの更新
 - ・ペアレンタルコントロール機能（保護者による子どものスマホの利用制限）の活用
- [学校]**
- ・子どもたちによる望ましい利用のためのルールづくり
 - ・ネット依存やゲーム障害に関する情報の提供
 - ・インターネットに関する講演会の開催や最新情報の提供

依存傾向がみられる場合は
精神保健福祉センターや
専門医につないでください

関係機関連絡先

- ▶不登校・特別支援に関する相談
徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課 ところとからだのサポートセンター (088)672-5200
- ▶育児や子育てに関する相談
徳島県中央子ども女性相談センター (088)622-2205
徳島県南部子ども女性相談センター (0884)22-7130
徳島県西部子ども女性相談センター (0883)53-3110
- ▶発達障がいに関する相談
徳島県発達障がい者総合支援センター ハナミズキ (0885)34-9001 アイリス (0883)63-5211
- ▶こころの悩み相談支援(ネット依存・ゲーム障害)
徳島県精神保健福祉センター (088)602-8911
- ▶非行・矯正・更生保護・心理に関する相談
徳島県警察少年サポートセンター (088)625-8900 (ヤングテレホン)
徳島法務少年支援センター (088)652-4115
- ▶生徒指導全般に関する相談
徳島県教育委員会人権教育課 いじめ問題等対策室 (088)621-3138

徳島県教育委員会
人権教育課いじめ問題等対策室

〒770-8570
徳島市万代町1丁目1番地
電話088-621-3138
令和2年3月発行